

たしかかな未来を創る

雄武町長 高橋 健仁

新年 明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、清々しい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日頃から町政に対しご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。私は昨年9月の雄武町長選挙におきまして、町民の皆さまの温かいご支援とご支持をいただき、初当選の栄に浴し、町政の重責を担うこととなったところであります。町民の皆さまの「生命」と「暮らし」を守る行政の責任者として、町政運営に全力を尽くし、「たしかかな未来を創る！」という大きな指針のもと、まっすぐりを進めてまいります。

さて、私たちが、かつて経験したことがないほど、生活のあらゆる面において大きな影響を及ぼしてきました新型コロナウイルス感染症も、昨年5月に感染症法の位置付けが5類に引き下げられ、徐々にコロナ禍以前の状態に戻りつつあります。雄武町におきましても、「産業観光まつり」や「うまいもんまつり」などが通常どおり開催され、笑顔で楽しむ親子連れをはじめ、催しを待ちこがれた大勢の人で賑わい、活気にあふれていました。

さらに物価高騰及び中国による日本産水産物の輸入停止などにより、ホタテの流通をはじめ、社会経済活動に大きな影響が及んできております。町としては状況に応じ、きめ細かな支援や対策を適時実施し、町民の皆さまの生活を全力で守ってまいります。

昨年の町内の産業の状況であります、

特に飼料原料の多くを海外から調達している酪農・畜産業におきましては、こうした世界情勢の変化による飼料価格高騰の影響は非常に大きく、生乳の生産抑制の低下を招くなど、先行きが不透明な非常に厳しい情勢でありました。

搾乳農家は徐々に減少している傾向にありますが、昨年、20数年ぶりの新規就農者を迎えたことは大変喜ばしく、生乳生産量の確保や農地の有効利用の観点から、新規就農を含めた担い手対策には、地域をあげて引き続き力を入れていく必要があります。

漁業は、主要魚種の一つでありますホタテ貝が、全体の水揚量・漁獲高ともに過去最高を記録した一昨年に次ぐ結果の年となりシーズンを終えました。毛ガニは、計画量の41トンを超え、水揚げしたものの、資源量は不安視されており、オホーツク管内栽培漁業推進協議会毛ガニ部会による種苗生産の研究が、将来に向け研究成果が実を結び、資源が回復することに期待を寄せるところであります。

また、サケの近年の水揚量は、増加と減少が著しく変動しており、昨年は大漁であった一昨年と比較すると減少しておりますが、例年並みの結果となりました。水産加工業では、ALPS処理水放出に反対した中国政府による水産物輸入停止措置により、ホタテの流通に支障を生じ、取引価格の下落を招くなど、大きな混乱と影響を受けることとなりました。

町といたしましても緊急的に支援対策

令和6年の新しい年が明けました。町民の皆さまにおかれましては、穏やかに新年をお迎えの事と心より慶び申し上げます。旧年中は、町議会に対して深いご理解と温かいご支援ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、まず令和元年に中国で確認された新型コロナウイルス感染症の影響によりさまざまな困難な状況に直面しましたが、5月には3年4か月ぶりに感染症法上の分類が季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げられました。その後、行動制限がなくなった効果もあり、徐々に皆さまの日常が元に戻りつつあります。これまで医療従事者の方々や関係者のご尽力に深く感謝申し上げます。また、町民の皆さまのご協力により、感染拡大を抑えるための取り組みが進められましたことにも感謝いたします。

一方、ロシアのウクライナ侵攻は約2年に及びます。ウクライナ国民は自国の領土を守るため命を懸けて戦闘を続けています。この「戦争」には欧米を始め日本もウクライナを支援していますが、現在も終息は見えず膠着状態です。また、10月7日にパレスチナのガザ地区を支配する「ハマス」によるイスラエルへの攻撃によって勃発した、「パレスチナ・イスラエル戦争」は双方の攻撃により、どちらも民間人の犠牲者が日々増加するという極めて悲惨な状況です。戦闘状態の地域が地球上でウクライナ・ロシア戦争と同時に発生しているのが現実です。

昨年の町内を振り返ると、漁業の漁獲金

雄武町の発展に向けて一つになる

雄武町議会議長 橋詰 啓史

額は前年比21億円の減少で約74億円です。しかし中国が8月に「日本産水産物の輸入全面停止」を発表したため、主力の冷凍ホタテが中国へ輸出できなくなりましたが、その後、農林水産省の「食糧のぜいっポーン」キャンペーンを始め、国内での消費拡大や中国以外への輸出先の開拓に官民共に努力を続け、心配された在庫増による保管用冷蔵庫のひっ迫も危機を脱する兆しがあります。

ホタテについては、水産庁及び経産省、東京電力、北海道庁、国會議員や道議會議員の方々が、補助金と保証制度の確立について協議して頂きました。また日本全国からの「頑張れ」応援も、「支援」ご声援が生産者や水産加工業の方々の不安を緩和する強い力になりました。改めて関係各位に心から感謝を申し上げます。

農業では、生乳生産額が4.5%増の28.6億円(補助金含む)生産量は5.9%減の24,800トンでした。昨年に続きロシアのウクライナ侵攻の影響により、穀物価格、石油価格などの高騰によるコスト増加により、組合員の方々は未だ厳しい経営の中で努力を続けている所です。

「国営緊急農地再編事業雄武丘陵地区」農地整備事業は今年で7年目です。将来この事業完成により輸入穀物中、心の飼料よりも自給飼料を主とした営農による雄武町の農業の飛躍を確信しています。また安全操業の根幹である漁港の整備も、元稲府・雄武・沢木各漁港がそれぞれ予算化されており、次世代には安全で優れた漁港や大規模で状態の良い農地を残す事が、今を生きて

を講じてきたところでありますが、漁業水産業を取り巻くこの問題が、いつまで影響を及ぼすのか先行きが不透明であります。この問題の解決にあたりましては、輸入停止措置の撤廃や他国への輸出振り替え、国内の新たな販路拡大などが必要となるため、引き続き、北海道庁及び国の関係機関等にオホーツク管内をあげて、強く要請してまいります。

私は、昨年10月から町政運営に取り組んでおりますが、責任感と使命感で身の引き締まる思いで毎日を過ごしております。先人が築き上げましたこの町をしっかりと守り、次代に引き継いでいけるように、「たしかかな未来を創る」というまっすぐりの大きな指針のもと、それを具現化していくための「地域の暮らしを守り、健やかで安心なまちづくりをめざす」、「来て見て感じ、集いと賑わいをつくるまっすぐりをめざす」という2つの施策テーマの実現に向け全力を傾注してまいりますので、本年におきましても町民の皆さまのご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

結びに、町民の皆さまのご健康とご多幸を心からお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。

私達の大きな責務です。

漁業 水産加工業 農業、共に我が町にとって雇用と町の経済を支える重要な基幹産業です。国・北海道の補助制度活用とあわせて、議会としても常に状況把握に努めて可能な助成制度を町と共に議論して参ります。

昨年は、4月の知事・道議會議員選挙の後、町議會議員選挙が、9月には町長選挙が執行されました。町議會議員選挙では、定数10人に対し11人が立候補して3人の新人と7人の現職が当選しました。9月の町長選挙は、現職と新人2名の3人の選挙戦になり、新たに高橋町政がスタートしました。同時に欠員が生じていた議會議員の補欠選挙も告示され、新たに1名が当選しました。この10人で4年間議会を運営してまいります。

議会としては、未来の雄武町を担う若い世代が胸を張って自慢できる雄武町を目指して、町の経済の活性化、地域の産業を支えるための施策と共に、子育て支援や教育環境の充実、高齢者福祉の向上など、皆さまが安心して暮らせる環境づくりにも力を入れてまいります。町民の皆さまの声に真摯に耳を傾け、透明性のある議会運営を心がけて新たな気持ちで、新町長と議論を重ねながらより良い町づくりに取り組む所存です。

町の発展には皆さまのご協力が不可欠です。一人ひとりが地域の一員として、お互いに支え合い、協力し合うことで、より良い未来を築いていくことができます。町議会議会としても、皆さまと共に歩み、町の発展に貢献してまいります。

雄武町長と雄武町 議會議長が語る

新年の誓い

令和6年も、皆さまのご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。雄武町の発展に向けて、一丸となって取り組んでまいります。

